

クロシジミ

Niphanda fusca fusca

兵庫県：Aランク

環境省：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

種の概要

前翅長16～23mm程度。翅の表面は♂では暗紫色、♀では黒褐色で、基半部に白斑が発達する個体も見られる。裏面は褐色味を帯びる灰白色で、前後翅ともに黒色斑を散布する。平地から山地の疎林に生息し、若齢幼虫はアブラムシ類の分泌物を舂め、2齢以降はクロオオアリの巣に運ばれてアリから給餌を受ける。年1化性で、成虫は6月～8月に出現する。



写真提供：近藤伸一

国内分布

本州、四国、九州

県内分布記録

神戸市、西宮市、芦屋市、宝塚市、川西市、三田市、西脇市、三木市、小野市、加東市、多可町、姫路市、福崎町、相生市、赤穂市、上郡町、佐用町、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町、淡路市



選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
○	○	○	○		○

特記事項

BランクからAランクに変更

県内全域（29市町）に広く分布していたが、1980年代に急速に個体数を減じ、1990年代になると南部でほとんど見られなくなり、2000年代には北部でも著しく減少している。クロオオアリのすむ明るい林間や林縁、草原などの限られた空間が生息環境であったが、常緑広葉樹の成長などで林内が暗くなり、草原環境も失われた。

保護上の留意点